

私立 東北工業大学

ピアサポート・タイムダラー方式キャリア発達支援プログラム

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35番1号
設置者	学校法人 東北工業大学

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

本補助事業は、対人関係が苦手な学生や発達障害を抱える学生へのキャリア発達支援を含む、学生の社会人基礎力向上を目的とする。本取組では、「キャリア支援」を従来の就職活動を支援する「キャリア支援」と、自分の人生を前向きに捉えて生きていくための力を支援する「キャリア発達支援」の2つの視点から捉えている。

1つ目は「キャリア支援」を充実させることを目的として、本学が送り出す卒業生(人材)に対する社会的ニーズの現状把握を行い、社会の一員としての意識を育む教育支援内容及び体制の改善を目指す。

2つ目は「キャリア発達支援」を実施するための場として、相互扶助的なコミュニティの醸成による社会人基礎力・自己肯定感の向上を目標とした「トポステンボ」を設置する。「トポステンボ」では、自分にできることをサービスとして登録し、そのサービスを求める学生とのマッチングを援助し、コミュニケーション能力や将来設計能力をはじめとした社会人基礎力の習得を目指す。

それぞれについての向上を図る。

プログラムの実施内容

1. タイムダラー制度を導入し、「自分にできるサービス」を、それに要した「時間」を対価とした独自の地域通貨で売買するシステムを構築・運営した。
2. テーマを持ち寄って話し合う座談会、ゲーム大会やスポーツ大会など、学生主催のイベント企画や実施の補助を行った。
3. 就職に関する様々な疑問の解消や、充実した学生生活を行うためのヒントを得られることを目的とし、学内外の様々なゲストを招き、トポステンボが企画・主催する座談会を定期的に開催した。
4. 卒業生とその就職先の企業を対象に、満足度調査(アンケート)を実施した。
5. 「就職支援セミナー」、「卒業生による社会体験」等の講演会を開催した。
6. 外部のキャリアカウンセラーによる進路・就職相談を行った。

到達目標

出口支援としての就職率向上だけでなく、社会人基礎力を備えた創造的統合力のある人間として、学生を社会へ送り出すことを目標とする。そのためには、QOC (Quality of Community) の向上、自己肯定感の向上、発達障害を抱える学生への支援、また一方で本学が送り出す卒業生(人材)に対する社会的ニーズの現状把握、学生個々の能力や適性に応じた就職支援の充実が課題となり、それらを達成することも目標となる。社会人基礎力について、文部科学省による「キャリア発達に関わる諸能力」の例として挙げられている、1) 人間関係形成能力、2) 将来設計能力、3) 情報活用能力、4) 意思決定能力、

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法

1) オリエンテーションでの説明、パンフレット、チラシの配布、2) ホームページへの掲載、3) 学内掲示、4) 就職関連セミナーでの周知、5) 広報誌や地元新聞への掲載、7) イベントのアウトリーチ化(学内の学生が多く集う場所でのイベント開催)、8) 教員向け就職研修会での説明、9) 教授会での活動報告、10) 学生及び教職員への説明、などである。年度末には活動概要書の作成及び配付を行った。

2. 当該プログラムの成果

①自己評価は、どのような観点で行ったか。

到達目標である社会人基礎力の習得及び自己肯定感の向上について、量的・質的な側面から評価を行い、評価委員会によるPDCAサイクル体制を確立した。

I. 社会人基礎力の向上

以下の下位カテゴリについて、それぞれの観点から評価を行った。

(1) 人間関係形成能力

トポステンポでの取引や交流イベント実施数、参加者数を量的指標、これらの活動を通じて起こった学生の変化の事例を質的な指標とした。

(2) 将来設計能力

トポステンポ主催イベント実施数と参加者数を量的指標、参加学生の感想や変化の事例を質的な指標とした。

(3) 情報活用能力

「就職支援セミナー」、「卒業生による社会体験談講演会」の実施回数とその参加者数を量的な指標、受講した学生の感想などを質的な指標とした。

(4) 意思決定能力

キャリアカウンセラーによる進路・就職相談の相談件数を量的な指標、相談した学生の感想などを質的な指標とした。

II. QOC (Quality of Community) の向上

QOC調査は、2010(平成22)年4月に第1回調査を実施し、本補助事業実施前の現状把握を行った。第2回調査は本補助事業最終年度の2013(平成24)年2月に行い、第1回調査との比較やトポステンポ利用群と非利用群の結果を比較することで、効果の指標とした。

III. 自己肯定感の向上

マズローの欲求段階において、最終段階である自己実現の欲求へ到達するには、下位段階である自尊の欲求と所属の欲求が満たされることが必要とされている。自尊の欲求は、取引数を量的指標、取引による学生の変化事例を質的な指標とし、所属の欲求は、トポステンポの来店者数を量的指標、居場所として利用した学生の変化事例を質的な指標とした。

IV. 本学が送り出す卒業生(人材)に対する社会的ニーズの現状把握

卒業生がどのように評価されているかを把握することは、本学のキャリア教育の改善にとって欠かせない。卒業生とその就職先の企業に満足度調査(アンケート)の実施回数、回収率を量的な指標、回答内容を質的な指標とした。

V. 学生個々の能力や適性に応じた就職支援の充実

多様な学生が入学してくる現状の中で、限られた期間内で学生に適切な進路・就職支援(指導)をすべきことは大切である。就職の選考が開始される年度初めの就職希望率を量的な指標とした。

②到達目標に達したか。③具体的な成果は何か。

I. 社会人基礎力 (*各事例、学生の感想文・体験記等については客観的資料参照)

(1) 人間関係形成能力

正規教育課程のみでは賄いきれない「人間関係形成能力」の育成は、タイムダラーを導入することで補償し得たと考える。全学生約3,000人に対して、2年間で335人の利用者登録があり、238件の取引があった。また、タイムダラーを利用しなくとも、トポステンポでコーディネーターやアルバイトスタッフ、その他の一般学生と関わる中で、その能力が日々培われていくことは言うまでもなく、2年間の来店延べ人数が3,007人(利用率10.66%:2011(平成23)年度QOC調査より)いたことから、そうした機会を少なからず提供し得たと言える。

なお、2011(平成23)年度QOC調査では、1,885人の回答を得たうち、アルバイトもサークル活動もしていない学生が482人おり、うち37人がトポステンポを利用したことも分かった(7.68%)。

こうした課外活動に対して消極的な学生たちへのアプローチにも、一定の効果を示したと言える。それらの具体的な体験は1人ひとり様々であるが、取引を通じてコミュニケーション能力の向上や新たな友人作りを成し得たXの事例や、アルバイトスタッフやタイムダラー参加者の感想などから、能力向上に寄与し得たと言える。

(2) 将来設計能力

計40回(参加者数延べ276人)開催した、就職活動や人生設計に寄与する内容を提供したトポステンポ主催イベントに参加することで、それらを「自分のこと」として具体的に取り入れることが可能となった。少人数形式で実施したことで、ゲスト講師を身近な存在として捉え、参加学生自身へと投影しやすい環境を作れたことも効果を発揮したといえる。個々の能力開発という点においても、すべてサービスにコーディネーターやスタッフが登録者と内容を検討することによって、サービス内容をブラッシュアップした。学生の感想からも明らかのように、サービスを提供する過程で自身の能力を価値あるものとして捉えることができたり、逆に足りない部分に気付いたりすることができており、自分の能力や将来を

前向きに捉えていく力が醸成されたと言える。

また、目先のことだけでなく、将来の自分という観点からも自身の課題を見つめることが出来るようになったZの事例からも明らかのように、先の見通しを持つことが苦手な発達障害を抱える学生に対しての支援にも効果を発揮しており、幅広い学生への適用が可能なことも証明された。

(3) 情報活用能力

先輩の職場・業務内容の実際を見聞きすることは、学生本人の職業観を醸成する上で貴重であり、また社会人の基礎力・マナーを身に付けさせる動機にもなっている。これまでの3年間で、就職セミナーとして「業界研究会」、「卒業生体験講演会」、「就職支援講座」を計118回開催した。参加学生数は延べ5,238人に達した。聴講学生の感想では実際の職場の雰囲気などを感じ取り、説得力、影響力も持って受け入れており、大きな成果になったと評価できる。

(4) 意思決定能力

キャリアカウンセラーによる「就職活動なんでも相談」は個人の興味、能力、価値観、その他の特性を基に、個人にとって望ましいキャリアの選択・開発を支援する場であり、積極的な利用を学生に推し進めた。これまでの相談件数は延べ1,605件である。この他にも「就活支援ワークショップ」も行った(19回、参加者数延べ106人)。こうした中で、学生は自分自身と向き合い、自身の価値観・人生観を再発見し、自己理解を深め、意思決定能力が涵養されたと評価する。

II. QOC (Quality of Community) の向上

H22年度調査より、QOCを構成する「教職員との関係」、「友人との関係」、「大学満足度」、「家族との関係」、「心理的健康度」の5つの因子が見出された。2011(平成23)年度の結果との比較から、「教職員との関係」について、統計的に有意な上昇が見られた。教職員がタイムダラーの取引に参加したケースや、トポステンボ主催イベントに参加したこともあり、授業・事務上の関係より一歩踏み込んだ関係性が築けた効果と考える。

III. 自己肯定感の向上

自尊欲求は、タイムダラーやイベントの企画を通じ、誰かの役に立つことでダイレクトに刺激されるものである。238件の取引があり、それらの充足へ寄与し得たと考える。取引を経て自信が付き、「出遅れた」友人作りをリカバーした事例Xの変化や、「自信が付いた」と語る利用学生の感想にも現れている。

所属欲求への援助は、一人で過ごすことが多かった学生が、トポステンボでの様々なやりとりを経て変化していった事例Yを見れば明らかである。また、アルバイトスタッフが業務を通じてトポステンボを「職場」としての居場所になったことや、活性化委員会としてトポステンボを盛り上げる役に徹する中で居場所になっていたことなどは、彼らの体験記の随所に現れている。また、運営期間が実質17カ月内で、3,000人余の学生が訪れた事は、「小さな居場所」として機能していたことがうかがわれる。実際、空きコマや授業後などにふらっと訪れ近況を話すなど、トポステンボを心の休憩所として利用している学生も少なくない。

IV. 本学が送り出す卒業生(人材)に対する社会的ニーズの現状把握

卒業生とその就職先の企業に満足度調査(アンケート)を毎年1回実施した(計3回)。回収率は企業28~30%、卒業生7~11%であり、卒業生の回収率が低調であったことは否めないが、回答結果を整理すると、他の能力と比較して決して評価が低いわけではないものの、「コミュニケーション能力」が企業の要求する程度に十分応えられていない点が浮かび上がった。この点を改善すべく、教員向けの就職研修会等で周知し、学生の指導にあたっては留意するよう提言することが可能となった。

V. 学生個々の能力や適性に依じた就職支援の充実

本学では就職活動を支援するキャリア支援を低学年からスタートする体制を敷いており、その中に本事業の取組である「就職支援セミナー」、「就職活動なんでも相談」等も組み入れた。また女子学生もいることを踏まえ、できるだけ女性のキャリアカウンセラーを配置するよう配慮した。このような場を学生に数多く与えることで、個人にとって望ましいキャリアの選択の早期実現が可能となるものである。

本学4年生の就職希望率(年度初め)はリーマンショック直後の低迷期にあっても95%前後を維持しており、また今年度の就職内定率の月別推移をみると、ほぼリーマンショック以前までに回復するような傾向を示しており、就職意識の早期醸成が達成されていると評価できる。

今後の計画

1. 本補助事業で実施した調査により、本学の学生に必要な支援として、特にコミュニケーション能力

の向上が求められていることが明らかとなった。本学の学生を採用した企業、卒業生ともに、コミュニケーション能力の重要性に着目し、同時に能力も学内での支援も不足していると指摘している点は看過できない。一方で、トポステンポがコミュニケーション能力をはじめとした社会人基礎力の醸成に効果的であることも明らかとなった。生の体験が乏しい本学の学生にとって、援助的に関わるコーディネーターや、同じ目線で会話できる学生アルバイトがいるトポステンポが、ある時は自分を磨く場となり、ある時は居場所となりながら、安心して体験を重ねていく「場」として受け入れられていた。

次年度以降は、トポステンポ活性化委員会としての活動に力を入れ始めたピア・サポーターとの連携を深め、学生のニーズを把握しながらPDCAサイクルによる事業の見直しを図りつつ、トポステンポの継続運営を行い、学生の社会人基礎力の向上に寄与する。

2. 2012(平成24)年度中に竣工予定の長町キャンパス4号館へトポステンポを移設し、ピア・サポーターの活動の場として活用することで居場所としての機能強化を図り、より身近な施設として学生全般の利用率の向上に繋げる。また、トポス主催イベントを充実させ、地元企業の関係者や卒業生を活用するなど、産学の連携強化を図りつつ、学生のキャリア発達支援策を発展させる。
3. 就職活動の支援に関する本取組を維持するとともに、教職員・学生・父母へのキャリア教育の重要性について啓蒙する。また教職員には、同教育に関わる専門知識を身に付けさせる研修会の開催、そして全学的な支援体制の充実(組織強化)を図る。

就職未内定者への支援策

1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

ピーク時を過ぎた時期(7月後半)に、未内定者を対象とする個別の就職模擬面接を実施し、本人の就職活動状況、希望先(業種、勤務先)及び就職試験の準備状況等を確認しながら就職支援を行っている。それと同時に本学独自で学内合同企業説明会の開催、さらに東京都内で実施される合同企業面接会への就活バスツアーの実施などの支援を行

い、できるだけ多くの企業との接触の機会を設けている。また常時、キャリアサポート課、学科就職委員、進路指導員(卒業研修指導教員)による就職相談を推し進め、これにキャリアカウンセラーによる「就職活動なんでも相談」を開設し、支援強化を図っている。

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

キャリアサポート課、学科就職委員及び進路指導員等による既卒未内定者との連絡網を充実させ、就職情報(求人、公共機関による各種支援策等)の提供、就職相談・斡旋を行うとともに、より身近な地元のハローワーク等の公共機関への相談も励行している。また、学内合同企業説明会の開催にあたっては既卒未内定者の参加も可能なように配慮し、これへの参加を呼び掛けている。なお、本学では就職未内定者を研究生として受け入れ、研究活動、就職活動への支援を行うとともに、これらの研究生に対しては研究料の減免措置を行っている。

【進路セミナー】

進路セミナー開催回数と参加者数

		H21年度	H22年度	H23年度	計
業界研究会・OB講演会	開催回数	23	15	12	50
	参加者数	8	22	38	68
就職支援講座	開催回数	677	865	3,696	5,238
	参加者数				

【就職満足調査(アンケート)】

H21～23年度「就職満足度」発送回収状況

	H21年度		H22年度		H23年度	
	企業	卒業生	企業	卒業生	企業	卒業生
発送数	1,363	3,624	1,093	3,550	1,183	3,331
返信数	416	388	329	282	349	244
返信率(%)	30.5	10.7	30.1	7.9	29.5	7.3
有効回答数	414	385	321	279	335	242
有効回答率(%)	30.4	10.6	29.4	7.9	28.3	7.3

企業の側から見た理想の現実のギャップ (H21～23年度「就職満足度調査」(企業アンケート)より)

項目	理想(A)*1	現実(B)*2	差(B-A)*3
一般的な知識・教養	3.18	3.01	-0.17
多様な文化の理解(国際感覚)	2.44	2.58	0.14
専門的な知識・技術	3.14	3.09	-0.05
論理的な思考力・判断力	3.36	2.96	-0.40
コミュニケーション能力	3.81	3.04	-0.77
問題解決の技術	3.27	2.86	-0.41
プレゼンテーション能力	3.04	2.73	-0.31
情報機器を活用する基礎能力	2.97	3.15	0.18
自ら課題を立て、解決する姿勢	3.49	2.82	-0.67
倫理観・責任感	3.60	3.18	-0.42
協調性・バランス感覚	3.61	3.16	-0.45
物事を考える多角的な視点	3.31	2.79	-0.52
柔軟な発想力	3.41	2.77	-0.64
未来への明確なビジョンを描く能力	3.17	2.67	-0.49

*1 新卒者採用の際に重視する度合いの平均値
測定尺度：4=非常に重視する 3=まあまあ重視する 2=あまり重視しない 1=重視しない
*2 これまでに採用した本学卒業生の全体的な評価の平均値
測定尺度：4=非常によい 3=まあまあよい 2=あまりよくない 1=よくない
*3 「理想」(平均値)と「現実」(平均値)の差

【キャリアカウンセラー】

キャリアカウンセラーによる相談窓口利用状況

		H22年度	H23年度	計
就職活動なんでも相談	利用者数	737	868	1,605
	開催回数	14	5	19
就活支援ワークショップ	開催回数	14	5	19
	参加者数	87	19	106

【トポステンポ】

I. 量的指標

1) 来店者数(延べ)

		H22年度	H23年度	計
学 生		1,561	1,297	2,858
教 職 員		68	35	103
そ の 他		27	19	46
計		1,656	1,351	3,007

2) 利用登録者数

		H22年度	H23年度	計
計		266	69	335

3) 売ります、買います、契約数

		H22年度	H23年度	計
売 り ま す		105	46	151
買 い ま す		176	106	282
契 約		144	94	238

4) 学生主催イベント数、参加者数(延べ)

		H22年度	H23年度	計
開 催 数		14	14	28
参 加 者 数		65	69	134

5) トポステンポ主催イベント数、参加者数(延べ)

		H21年度	H22年度	H23年度	計
開 催 数		10	13	17	40
参 加 者 数		56	64	156	276

トポステンポ主催イベント一覧

		イベント名	日付
H21年度		隠れた才能をみつけよう!	12/9、12/15、12/18
		会社ではコミュニケーションが大事っていうけど、今、友達とコミュニケーション取れているんだから、会社でも問題ないよね?	1/13、1/14、1/19
		PCのスキルさえあれば、技術者として仕事していけるよね?	2/3、2/9、2/12
		仙台弁かるたで仙台弁を覚えよう!	2/17
H22年度		履歴書なんてすぐ書けるよね?	5/13、5/18
		ボランティア活動の魅力	5/19
		対人スキルがないとバイトは始められない?	6/10、6/15
		資格さえあれば認められるよね?	7/8、7/12
H23年度		内定を取った先輩にイロイロ聞いてみよう	12/9、12/16、12/17、12/20、1/13、1/14
		囲碁教室	6/17
		オススメ映画を勧めあう会	6/24
		モンスターハンター3rd ハンティング祭	7/1
		内輪でうちわを作ろう	7/8
		青春のキャンパスライフ	7/22
		超融合!!ジャンルを超えた決勝!!	7/29
		オススメの本を紹介します	10/21
		JAZZイベント	11/4
		川柳・俳句イベント	11/18
		ブーメランを飛ばそう!	11/7、11/14
		内定を取った先輩にイロイロ聞いてみよう	11/8、11/9、11/11、11/14、11/15、11/25

6) トポステンポ利用とアルバイト・サークル活動の有無 (H23年度「QOC調査」より)

アルバイトとサークル活動とトポステンポ利用のクロス表

		トポステンポ利用			サークル			計
		学内	学外	所属なし	学内	学外	所属なし	
あり	アルバイト	している	66	3	54	54	123	
		していない	38	3	37	78		
		合計	104	6	91	201		
なし	アルバイト	している	381	47	454	882		
		していない	334	23	445	802		
		合計	715	70	899	1,684		
合計	アルバイト	している	447	50	508	1,005		
		していない	372	26	482	890		
		合計	819	76	990	1,885		

II. 質的指標

■事例X

1年生男子学生Xは、授業の空き時間にトポステンポに一人でふらっと訪れたことをきっかけに、コーディネーターやアルバイトスタッフと少しずつ話すようになっていった。彼は自宅が遠いこともあり、入学後の課外活動にもなかなか参加することができず、友達作りに「出遅れた」と打ち明けた。色々な話をするうちに、趣味で〇〇を練習していることがわかり、トポステンポでそれを披露し、そのコツを教えるというサービスを提供したい、と言うようになった。しかし、人前で披露する時にはいつも緊張してしまって手が震えるから自信がない、とも語った。<失敗してもいいんだよ>とコーディネーターはフォローしたが、サービスとして登録するにはまだ抵抗を覚えているようだった。そこで、まずはコーディネーターが取引相手となる予備取引を行おうと提案した。彼は承諾し、コーディネーターと取引を行った。少なからず緊張しながらも、大成功だった。彼は自信を少し付け、アルバイト学生とも取引をし、ついに掲示板に貼りだすに至った。

大衆性のあるその趣味は多くの関心を集め、次々に申し込みがあった。取引を重ねるにつれ「自信が

つきました」と言い、当初は緊張感が漂っていた話し方も、驚くほど流暢なものへと変わっていった。また、取引を通じて友達も増え、「出遅れた」という友人関係を完全に挽回するに至った。その後も、彼は「日課です」と言って毎日のようにトポステンポに訪れ、挨拶や近況を話し続けた。今では常に友達と行動するようになったが、トポステンポには定期的に訪れ、自分が相手になれそうなサービスには積極的に申し込むようになっている。

■事例Y

Yは、独特のファッションセンスを持つ2年生の男子学生で、学内でも注目されがちな雰囲気だった。視線も鋭く、一見一匹狼のような印象を周囲に与えていたが、学内交流イベントにふらっと参加するなど、必ずしも1人での行動を好んでいるわけでもないようであった。

授業連携によってトポステンポを利用したことをきっかけに、その後もふらふらと訪れるようになった。最初の頃は彼の独特のファッションについて、コーディネーターが「ツッこむ」ことが多かった。例えば、<今日の服、全身黒で決まってるね>「…そうすか」というように、盛り上がるでもなく、ほそほそとした当たり障りのないやりとりが中心だった。そんな中、<何か雑誌とか読んでるの?>という問いかけから、彼の尊敬する男性モデルや、定期購読している雑誌についてなど、意外なほどに多く語ってくれた。そうやって関係を築いていく中で、自分のファッション性の独特さに由来して周囲から「浮いて」しまっていること、それによって悪く言われていることを知っている、など内面のことを話すようになった。そしてそれらは大学を辞めることを真剣に考えているくらい自分を苦しめているようであった。そこで、コーディネーターから個別のカウンセリングを提案し、トポステンポとは別の枠組みで臨床心理面接を行うようになった。

居場所のなさ、周囲から感じる冷たい視線に苦しみながらも、彼は懸命に大学へは通い詰め、無事退学せずに年度をまたいだ。個別カウンセリングで、そういう苦しみや、彼の内面・外面を巡る話を様々なにしていくうちに、彼の「仮面」はみるみる様相が変わっていった。まず、それまでは全く見られなかった笑顔を見せるようになり、話し方や目線が随分とマイルドになっていった。<その笑顔素敵だよ。前はちょっと怖い顔してたよ>と冗談っぽく言うと、

「これが本来の姿なんですよ」と笑った。そして、他を寄せ付けないほどバッチリ決まりきった髪形が少しルーズになり、服装も彼のセンスは保ちつつ、周囲に馴染むようになっていった。

トポステンポにも、授業の空き時間や、授業がない時でも暇な時はそのためだけに通学するようになっていった。コーディネーターのみならず、アルバイト学生とも積極的にコミュニケーションをとるようになり、それぞれに合わせた話題を彼からいろいろと持ちかけつつ、穏やかな雰囲気を楽しそうに関わり合うようになっていった。学生主催のイベントや、コーディネーターがその場で考案する企画(例:絵心選手権)にも彼は積極的に参加し、カウンセリングの時間に「あのとき楽しかったですね」と笑うことも多くなっていった。

3年生の終わりを迎えた現在、かつては退学しようとも思っていた彼は、トポステンポの外でも友人がで、残り少なくなっている大学生活を楽しめるところまでに至っている。

■事例Z

男子学生Zは、発達障害を抱える3年生である。トポステンポが本格始動したのは、彼が進級に苦しんでいた2年生の時であった。それまでにもカウンセリングルームには継続的に訪れており、特に学業への不安が強く、単位が思ったように取れずにいることに対して「自分は勉強時間が足りない」という強迫的な思考に追われ、単位が取れても「周りの人はもっと勉強しているに違いない」という思いからなかなか離れられずにいる状態であった。トポステンポが始動してからは、開店日には定期的に訪れ、アルバイト学生やコーディネーターと雑談を重ね、また『内定を取った先輩にイロイロ聞いてみよう』や『青春のキャンパスライフ』などのイベントへも積極的に参加するようになり、彼の中で少し変化が起きたようであった。すなわち、これまでは目の前の「勉強」しか視野になく、それだけにとられるように苦しんでいたZだったが、トポステンポでのイベントやスタッフとの交流を通じて、学生時代の勉強だけが全てではなく、その先にも人生(キャリア)が続いていることに気付く余裕ができたようであった。同時に、人生には様々な苦労があること、それをクリアするために先輩たちが勉強以外のことで力を使っていることにも触れることができ、カウンセリングのテーマも目の前の「勉強」から、就職を含

めた「自分自身のことと将来」を考える方向へシフトしてきている。

トポステンポ参加学生 利用感想文より

1) QOCの向上

*今回バスケットボールを友達を含め4人でやりました。友達とも仲が深まりとても楽しかった。今後もトポステンポを使用し、多くの人と交友をはぐくみたいです。

*トポステンポを利用することで友人が増えて大学生活が楽しいものに近づくための近道のように感じた。バトミントンは基礎をわかりやすく丁寧に指導していただきもっと練習してうまくなりたいと思いました。また、トポステンポを通して友達の幅を広げようと思います。

*話したことがない人とでもお互いが好きなことを一緒にすることで、楽しむことができた。とても良い経験だった。

*今回行ったラーメン屋さん、行ってみたかったけど機会がなく行けなかったのが、トポステンポを利用していくことができ、良かったです。また、気になるサービスがあったら、是非利用したいです。

*授業でわからないところだけでなく、いろいろな応用技を教えてください、大変満足できました。空いている時間をとても有効に使うことができた。ぜひまた利用したい。

*学科の先輩と関わるのが難しい工大において、先輩から直接レポートの書き方を教えてもらえたのはとても貴重な経験になりました。トポステンポを利用すれば先輩とも気兼ねなくお話しすることができます。

2) 自己肯定感の向上

*トポステンポで自分の新たな一面が見られて新鮮だった。

*学生達が自分で企画して人を集めて実施するというのでどうなるのかなと思いましたが、結果はなかなか面白みがあって良かったです。

*自分で人に見せるよりも、人に教えることは難しいと感じた。でも、教えてあげたことを練習して、成功した時、喜びを共有できたことは、とてもよかったと思う。また、これからもっと活動していけるように自分の腕を磨いていこうと思いました。

*自分にも役に立つことがあってうれしかった。

た。今度は誰かのを買ってみたいと思った。

*教えることは大変だったけど楽しかったと思う。次もまた機会があったら今度は買う側にもやってみようと思う。

*自分の能力が役に立っている感じがしてよかった。

*自分の理解度が足りなくて、ちゃんと教えることができるか不安でしたが、他人に教えることで自分の理解も深まり、自信も少しつきました。スキルアップのために、今後も利用したいと思いました。

*ポートフォリオの中でも目を引く作品に仕上がりました。シンプルゆえに、高い精度が要求され、バランス感覚が養われました。割と簡単にできそうだと思っていたのですが、予想以上に苦勞し、とてもいい経験になりました。

アルバイトスタッフ・トポステンポ活性化委員会感想文より

・アルバイトA

八木山校舎での活動がメインなので、普段交流のないライフデザイン学部の学生と接することで人間関係が広がった。また、憩いの場として来店する学生もいて雑談が1つの仕事になるところがある。その中で相手に対する話し方や話す内容の工夫をすることで自分自身の対人スキル、コミュニケーションスキルの向上に繋がるいい機会になると感じた。

・アルバイトB

知らない人と話すことがとても苦手だったが、トポステンポのバイトではその機会が多かったため、以前よりも慣れることができたように思える。また、一部のよく来てくれる学生とは個人的な交友を持つまでになれた。さらに、自分と同じ趣味の人と話している時も楽しかったが、知らない・カバーしてないジャンルの知識を持っている人達と話することができたので、自分の世界が広がった。

・アルバイトC

ひとつ苦勞したのが『朝カフェ(注:Cが提案したトポステンポでのイベント)』です。他の人よりも早く出勤したり前日に連絡をしたりするだけなのに、遅刻をしたり連絡を怠ったりと最初は失敗だらけで「もうちょっと責任持ってやってよ!」とお

叱りを受けたりしました。このままではいけない
 と思い、できるだけ早起きをしたり思い出したら
 すぐ連絡を入れるなど、気持ちを強く持って取り
 組みました。

トポステンポのいいところは、『憩いの場』と
 しての存在であることです。当初はサービスを買
 り買いつつために始まったものですが、トポスに
 足を運ぶ人はだいたいサービスの売買をしない。
 ところが、店内にある将棋をおもむろに取り出
 して「将棋やろう」と誰かが言うと、「いいよ」
 だったり「この駒はどう動くんだったっけ?」と
 他の人が参加する。ここで自然に会話が生まれ
 るし、ルールを忘れた人は相手に頼んで教えてもら
 いながら遊ぶ。つまり自然にサービスの売買がそ
 の場で生まれている訳です。手続きをして相談を
 して取引をするといった堅い場ではなく、緩やか
 な憩いの場であることで、自然とトポスが目指し
 ていることが達成できていると思います。

・アルバイトD

私はトポステンポでのアルバイトスタッフ業務
 を通じて、大きく分けて2つのことを得ました。
 1つめは「提案力」です。23年度から、八木山ト
 ポステンポでは学生参加型のイベントを企画・運
 営しています。今後のイベントや方針を議論する
 時に感じたことは、「人気イベント」、「良い方
 針」というものはシンプルである、ということ
 です。私たちアルバイトスタッフは全員学生です
 ので、各々が趣味等の豊富な知識を出し合い、様
 々な提案を積み重ねていきます。しかし、実際にト
 ポステンポを利用する学生が求めることから焦点
 がずれ、提案が膨張してしまうことも多々あり
 ます。利用する学生のニーズさえ押さえれば、議
 論は円滑に進行し、要点をしっかりと捉えたイベ
 ント、方針を提案することが出来ます。ニーズを
 押さえるには、話しを傾聴する力も必要だと思
 います。客観的に聞き、要点を捉え、まとめる。こ
 うした流れを考え、経験する中で、シンプルな提
 案をする力というものが徐々に身に付いてきた
 と思います。2つめは「社会人としての基礎能力」
 です。トポステンポは工大内という小さな社会
 の中で運営されています。そのため、ポスターの掲
 示やイベントで使用する場所の確保等には手続
 きを行う必要があります。また、電話、学生への対
 応も、接客のアルバイトの経験が少ない私にとっ

ては、細部まで反省する点が多かったです。です
 が、同じアルバイトスタッフの先輩や、カウンセ
 ラーの先生方(注:コーディネーターのこと)のご指
 導もあり、現在は人並みな接客応答・申請等の仕
 事がこなせるようになりました。

以上の2点が私の思う、得たことです。こうい
 った社会人としてのスキルを学び、実践すること
 ができるトポステンポは、工大という社会の中で
 貴重な経験ができ、研鑽を積んで自分を磨くこと
 ができる、「成長する場を自発的に作れる」ところ
 であると思います。

・トポステンポ活性化委員E

私が委員会を通して感じたことは、人の事を考
 えるのは大変。例えば、どうしたら人が寄りつく
 かなど考えてみても、わからない。自分が楽し
 いと思った事でも、他人はつまらないかもしれ
 ない。人の数だけ個性も違う。人のことを考える
 のは難しい。でも、その難しさが私自身の貴重
 な体験だし、成長に繋がると思う。私はスタッ
 フではなく、フリーの委員で、トポステンポの現
 状を知らない部分が多い。「現状を知らない人
 が意見を出していいのか?」と思うかもしれ
 ないが、現状を知らないからこそ見える部分
 がある。なので、意見は積極的に発言してい
 る。こんな立場である私をまわりのスタッ
 フも必要としてくれる。主に「イジられる」
 事について多いが、他のスタッフのやる気
 向上に繋がると思えば嬉しく感じる。楽し
 さがない会議では、他人が興味を惹くイベ
 ントや企画が生まれるだろうか?誰かを
 楽しませるなら、まずは自分達から楽しむ。
 そのためなら今後イジられ役に徹する。利
 用者がトポステンポを「場所」として利用
 するように、私にもこの場が「場所」なの
 だから。

評価結果

評定：S

評定理由（総論）

トポステンポと呼ばれるコミュニティを設置して、タイムダラー制度、座談会等の学生主催のイベントの企画・実施補助など、ユニークな学生の活動を引き出した、優れた取組である。その活用はやや停滞気味という気になる点もあるが、学長を中心とする

評価委員会が組織化され、定量的情報を中心として質的情報も含めた自己評価が試みられ、今後の発展が期待される取組が行われている。さらに、トポステンポの充実と追跡調査による効果評価の実施などを通して、これらの試みを正規の授業とどう連結させていくか、といった一歩踏み込んだ課題に取り組んでいくことも期待される。

実地視察報告

視察日：2012（平成24）年10月29日（月）



総評

東北工業大学では、学生同士が自分にできることを互いに提供し合うことで、相互扶助的なコミュニティを形成し、キャリア発達に重要な役割を果たすコミュニケーション能力や自己肯定感などを醸成するために、トポステンポと呼ばれる場を運営してきている。このプログラムは、キャリア支援とトポステンポ運営という二つの軸が適切にかみ合うことが求められ、キャリア支援に関しては就職部（就職委員を務める教員、キャリアサポート課の事務職員、外部から招聘するキャリアカウンセラー）が、また、トポステンポ運営に関してはウェルネスセンター（コーディネーターとなる教員、ウェルネスセンター事務職員、支援相談員の教員、ピア・サポーターの学生）が、お互いに連携を取りながら実施することとされている。トポステンポは、長町キャンパス、八木山キャンパスの両キャンパスに設置されている。

タイムダラー方式は1980(昭和55)年、米国のエドガー・カーン博士が発案した、お互いの能力・時間

を会員の間で交換する地域通貨システムである。トポステンポに利用者登録すると10ピアポイントが貰え、1時間のサービスを1ピアポイントとして、サービスの交換によってピアポイントが増減される。自分にできるサービスや誰かにしてもらいたいサービスがトポステンポに登録され、コーディネーター（カウンセラー）による仲介を経て契約が交わされ、サービスが実行された後は、買い手より売り手にトポステンポにおいてピアポイントが付加されるという仕組みとなっている。入学後のオリエンテーションで説明され、全学生にポイントカードとパンフレットが配布されるなどして周知が図られ、一部のセミナーにおいては特別課外活動として位置づけられて、授業との連携を図る試みも行われている。

利用者は、2011(平成23)年11月現在、全学生3,000名程度中、登録者数335名、取引数は238件（パワーポイントの使い方教示、ギターの弾き方教示、ラーメン屋推薦、研究室の掃除手伝い、等）、学生主催イベント24件（キャンパスライフについて語る会、将棋大会、など）、トポステンポ主催イベント37回（例：

内定決定先輩に聞く会、トボス de トーク、など) ということ、それほど多くの利用には至っていないが、友人同士の絆の深まり、自分も役に立つことがあることの発見、大学生生活の充実感、先輩との交流など、利用者の感想からはいずれも高い評価が得られている。キャリア支援との関連では、内定が決まった4年生を各学科から講師として招き、就職活動の体験談やアドバイスを語ってもらい、密度の濃い質疑が行われ、後輩の学生には大変有用な機会として評価が高い。

上記のように、トボステンポを中心としたユニークな取組は、就職部とウェルネスセンターとの連携に基づくしっかりした実施体制の下、着実に運営されており、利用学生には効果的な場として今後もその活性化が図られることが望まれる。その点に関して、QOC (Quality of community) といった独自の質問紙を開発するなどして、その効果の検証なども図られている。ただ、それらを含む各種評価指標から検証可能な範囲は限られており、また、トボステンポなどへの学生参加者数などが必ずしも十分とは言えない点など、問題点も浮き彫りにされている。その点に関しては、ピア・サポーターを中心としたトボステンポ活性化委員会を立ち上げるなどして、その改善などにも取り組まれており、今後の更なる発展が期待される。